

発行日:2021年7月24日

環境経営レポート 2020



〈 対象期間 2020年4月 ～ 2021年3月 〉



< 目 次 >

1. 組織の概要 P2.3
2. EA21 実施体制 P4
3. 環境経営方針 P5
4. 中期環境経営目標 P6
5. 中期環境経営計画 P6
6. 当期環境経営目標とその実績 P7
7. 環境経営計画の取組結果とその評価 P8.9
8. 環境法規への違反及び訴訟の有無 P10
9. 代表者による全体の評価・指示 P10

ごあいさつ

カネテック株式会社は、創業から 70 年以上にわたり、マグネット応用機器を中心にあらゆる業界で、そして世界中の方々にご利用頂いております。マグネット応用機器の中には、産業廃棄物分別用の磁選機や、資源再利用の為に高磁力磁選機（いわゆるリサイクル用装置）もあり、30 年以上も前から環境への貢献を図ってきております。環境への意識が高まる中で、当然の如く製造する物への環境配慮は欠かせず、欧州を初めとするあらゆる環境規格に対応し、製造・販売を続けていきたいと考えます。

世界的な環境の意識向上の中で、そのレベルは高まっており、関連企業と共に環境意識を高め、より一層環境に配慮したものづくりに取り組むと共に、社会的責任と期待に応え行く事を宣言致します。

カネテック株式会社
代表取締役社長 山木 勝



1. 組織の概要

(1)名称及び代表者名

カネテック株式会社 代表取締役社長 山木 勝

(2)所在地

本社 長野県上田市上田原 1111
上田営業所 同上

東京営業所	東京都千代田区岩本町 3 丁目 2 番 9 号 (滝清ビル)
環境機器営業課	同上
海外営業部	同上
仙台営業所	宮城県仙台市若林区卸町 5 丁目 2 番 10 号 (卸町斎喜ビル)
群馬営業所	群馬県太田市龍舞町 3813-1 ホライズンコート 103 号室
名古屋営業所	愛知県名古屋市名東区高社 2 丁目 242 番地高社ビル 1 階
大阪営業所	大阪府大阪市東成区中道 3-15-16 毎日東ビル 5F
広島営業所	広島県広島市西区中広町 2 丁目 10 番 7 号 (Re 古田)
福岡営業所	福岡県大野城市山田 2 丁目 14 番 1 号グレースマンション大野城 1 階 C 号室

※方針：全組織・全活動を対象範囲とする。

段階認証：1 年目 (2021 年)：本社・上田営業所、4 年目 (2024 年)：枠内の全営業所

(3)環境管理責任者及び担当者氏名

環境管理責任者 : 戸島 孝幸
環境管理事務局責任者 : 笹沢 千秋
連絡先 : TEL 0268-24-1111
FAX 0268-24-1117

(4)設立

1956 年(昭和 31 年)11 月 (創業 1949 年(昭和 24 年)10 月)

(5)認証・登録範囲

本社・上田営業所

(6)資本金

585 百万円

(7)従業員数

178 名 (登録認証範囲 145 名)

(8)事業の規模

売上高 (単位：百万円)

2018 年度	2019 年度	2020 年度
4,332	3,733	2,645

(9)事業年度

4 月～3 月

< 事業内容 >

マグネットチャック、リフティングマグネット、磁選機器などのマグネット応用機器総合メーカーとして開発・設計・製造・販売からアフターサービスまで一貫して行っています。

永電磁チャック



環境負荷物質として一般的に使用されているハンダを廃止し、特殊樹脂を使用しています。

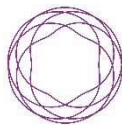
< CSR 活動 >

太陽光パネル

太陽光パネルを設置により、CO₂削減に貢献しています。



地域未来牽引企業



地域未来牽引企業

県内や地域の仕入先・外注先約 200 社との取引、上田創造館主催の子供発明チャレンジ教室への講師参加、各種イベントへの協賛、地元自治体夏祭りでの駐車場解放等、積極的な地域還元を行なっています。

SDGs

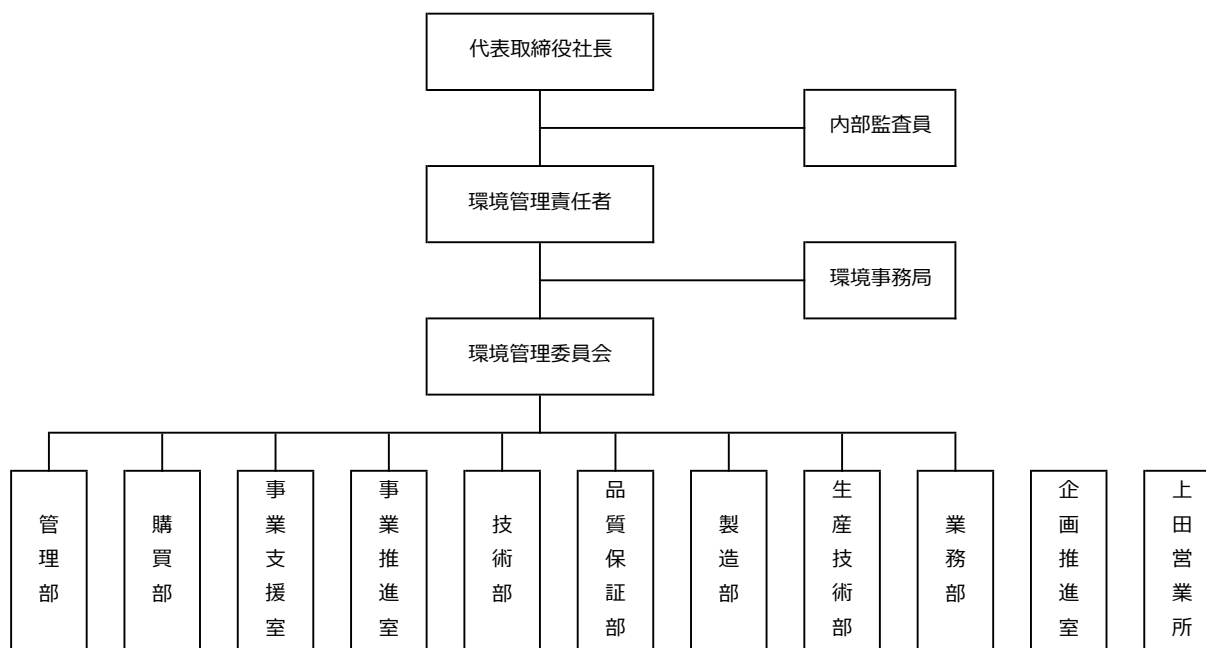


SDGs

REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

「長野県 SDGs 推進企業」に登録しました。バッジの着用や名刺へのマーク刷り等で SDGs を積極的に発信し、取り組みの輪を広げる活動も実施しています。

2. EA21実施体制



	役割・責任・権限
代表取締役社長 山木 勝	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者 戸島 孝幸	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
事務局 笹沢千秋 青木萌香 谷陽菜	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、環境管理委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境活動実施の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営方針

< 環境理念 >

カネテック株式会社は、地域環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、企業活動のあらゆる面において環境の保全に配慮し、地球の未来を創る企業として行動します。

< 環境経営方針 >

- 1.当社独自の環境管理システムを構築し、環境保全活動の推進維持向上に努め、環境汚染の予防及び環境負荷の低減とその継続的改善に努めます。
- 2.環境に関する法規制、協定及び組織が認めるその他の要求事項を遵守し、環境活動に取り組みます。
- 3.事業活動全般の環境影響評価を行ない、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的な見直しを実施して、継続的な改善を図ります。
- 4.当社の事業活動及び製品に関わる環境側面のうち次の項目を重点テーマとして取り組みます。
 - (1)地球温暖化防止のため、省エネルギー活動により電力消費量の低減を図ります。
 - (2)資源を有効活用するため、廃棄物の削減・再利用を促進します。
- 5.環境汚染物質の管理を行ない、代替技術、代替材料の採用をすすめ、汚染を予防します。
- 6.この環境方針は、社内教育及び啓蒙活動等を通じて全社員に周知するとともに、社外にも公開します。

制定日 2007年3月1日

改定日 2021年1月22日

カネテック株式会社

代表取締役社長 山木 勝

4. 中期環境経営目標

※ 2018 年度比

取組項目	中期環境経営目標 (2020 年度～2024 年度累計)
二酸化炭素排出量の削減	2.5%削減
廃棄物排出量の削減	5%削減
水使用量の削減	2.5%削減
製造工程において使用される有害化学物質削減	15 品目削減

5. 中期環境経営計画

※ 2018 年度比

取組項目	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
二酸化炭素排出量の削減	0.5%	1%	1.5%	2%	2.5%
廃棄物排出量の削減	0.5%	1.5%	3%	4%	5%
水使用量の削減	0.5%	1%	1.5%	2%	2.5%
製造工程において使用される有害化学物質削減	3 品目	6 品目	9 品目	12 品目	15 品目

6. 当期環境経営目標とその実績

項目	単位	2018年度	2020年度
電力	kWh	2,221,315	1,639,590
ガソリン	ℓ	4,812	3,406
軽油	ℓ	2,582	1,524
灯油	ℓ	20,647	14,146
A重油	ℓ	23,214	15,202
都市ガス	m ³	85,402	81,061
液化石油ガス (LPG)	kg	150.0	116.6
上記二酸化炭素総排出量	Kg-CO ₂	1,321,101	1,004,850
一般廃棄物排出量	Kg	159,608	115,395
産業廃棄物排出量	Kg	596,608	171,758
水使用量	m ³	5,447	5,448

判定：○100%以上 △95~100%未満 ×95%未満

項目	単位	基準年度	目標値	実績	達成状況・評価		目標値		
		2018年	2020年		達成率	判定	2021年		
削減項目	二酸化炭素排出量	電力によるCO2排出量削減 (0.5%目標)	kWh	2,221,315	2,210,208	1,639,590	135%	○	2,199,102
		ガソリンによるCO2排出量削減 (0.5%目標)	ℓ	4,812	4,788	3,406	141%	○	4,764
		軽油によるCO2排出量削減 (0.5%目標)	ℓ	2,582	2,569	1,524	169%	○	2,557
		灯油によるCO2排出量削減 (0.5%目標)	ℓ	20,647	20,544	14,146	145%	○	20,441
		A重油によるCO2排出量削減 (0.5%目標)	ℓ	23,214	23,098	15,202	152%	○	22,982
		都市ガスによるCO2排出量削減 (0.5%目標)	m ³	85,402	84,975	81,061	105%	○	84,548
		液化石油ガスによるCO2排出量削減 (0.5%目標)	kg	150.0	149.3	116.6	128%	○	148.5
		上記二酸化炭素排出量合計 (0.5%目標)	kg-CO ₂	1,321,101	1,314,496	1,004,850	131%	○	1,307,890
廃棄物	一般廃棄物の削減 (0.5%目標)	kg	159,608	158,469	115,395	137%	○	156,876	
	産業廃棄物削減 (0.5%目標)	kg	596,608	593,625	171,758	346%	○	587,659	
水	水使用量の削減 (0.5%目標)	m ³	5,447	5,420	5,448	99%	△	5,393	
化学物質	有害化学物質の削減	品目	-	3品目	8品目	-	○	6品目	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、中部電力（2018年度）CO₂調整後排出係数「0.452kg-CO₂/kWh」を使用しました。

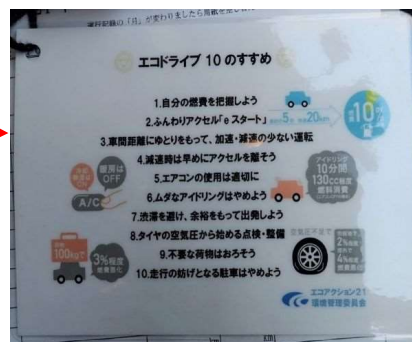
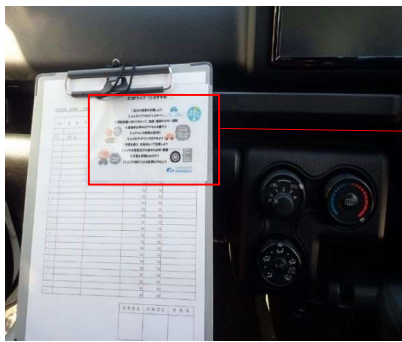
7. 環境経営計画の取組結果とその評価・次年度の取組み

数値目標の達成状況：○100%以上 △95～100%未満 ×95%未満

評価：○できた △まあまあできた ×全くできなかった

1. 二酸化炭素排出量の削減

取り組み計画	評価	次年度計画
数値目標：2018年度実績に対して0.5%減	○	1%減
①空調温度の適正化	○	継続
②照明・PC電源不要時のOFFの推進	○	継続
③電力、ガソリン量の集計	○	継続
④ノー残業デーの実施	○	継続
⑤エコドライブのポスター掲示	○	継続
コメント 取り組みはおおむね順調に終了した。環境教育を継続して行うことが必要。		
次年度の取り組み内容 順次設備更新と合わせ取り組みを継続していきたい。		



2. 廃棄物の削減

取り組み計画	評価	次年度計画
数値目標：2018年度実績に対して0.5%減	○	1.5%減
①分別ルールの徹底	○	継続
②廃棄物置き場の整備	○	継続
③廃棄物排出量の集計	○	継続
④裏紙使用ルールの徹底	○	継続
コメント 売上が減少したことで評価として現れている部分があり。計画的な取組みはできている。		
次年度の取り組み内容 分別を徹底し負荷の少ない取組みを行っていきたい。		



3.水使用量の削減

取り組み計画	評価	次年度計画
数値目標：2018年度実績に対して0.5%減	△	1%減
①製造工程における水使用量の集計	○	継続
②節水ポスター掲示	○	継続
③水回り部品のメンテ・補修	○	継続
コメント 計画的に遂行したが冷却水など大きな削減が難しい部分が課題として残った。		
次年度の取り組み内容 啓蒙に注力して取り組みを進めていく。		



4.化学物質取扱い及び管理の徹底

取り組み計画	評価	次年度計画
数値目標：2018年度実績に対して3品目	○	6品目
①取扱い商品の調査	○	継続
②購入量の把握	○	継続
③代替物質の検討	○	継続
コメント 含有物の対象物のリストアップや取り組みの方向性が確認できた。		
次年度の取り組み内容 対象物質および管理者を明確化し取り組んでいきたい。		

8. 環境法規への違反及び訴訟の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守状況
フロン排出抑制法	業務用空調機	○
水質汚濁防止法	油類・廃油	○
騒音規制法	金属加工機械・プレス機	○
PRTR 法	SDS 管理	○
RoHS2	顧客要求による対象製品	○
廃棄物処理法	産業廃棄物（廃プラ、廃油、金属くず）	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価・指示

- ・コロナショックによる生産量の減少で設定値をクリアする状況は、本来の目標値とは異なる為、2018年度を生産量を上回る状況で目標が達成出来る様、更なるアイデアや改善が必要で、全社員の意識を高める必要が有る。
- ・取り組み初年度で細部の数値情報の精度が高いとは言えない。意識を高める中で細かな部分の改善項目が増え、継続させるべき改善内容にも変化・対応が必要。また、専門部署からの声掛けも増やし、活発化させる事。